

## **インドを訪問し、CSIR** 中央建築研究所において記念講演を行いました (2025/2/25-26)

テーマ: GP-RSS, CSIR-CBRI, 灌漑システム

会場: CSIR-CBRI, Roorkee(ウッタラーカンド州ルールキー, インド)

当研究所の村尾修教授(国際防災戦略研究分野)は、2025年2月25日~26日にかけて、災害科学・安全学国際共同大学院プログラム(以下 GP-RSS)の一環でインドを訪れ、ウッタラーカンド州ルールキーにある CSIR 中央建築研究所(CSIR-CBRI)を訪問しました。東北大学は2017年に指定国立大学法人として認定され、「災害科学・安全学」を世界トップレベルの研究クラスターの一つとして位置付けています。GP-RSS は、本学と海外の有力大学が連携し、国際的な教育・研究を推進するプログラムの一環として運営されています。今回の訪問は、両機関の相互理解と継続的な関係を維持し、展開させていくことを目的として行われました。

まず村尾教授は、所長である Ramancharla Pradeep Kumar 氏と会談し、今後の研究協力および災害対策に関する意見交換を行ったのち、アッパー・ガンジス運河とソラニ水路橋を視察しました。この運河は 19 世紀半ばに建設され、ガンジス川の水を活用した灌漑システムとして地域の農業を支えています。また水路橋は、運河がソラニ川を跨ぐ構造になっており、インドの近代土木工学に大きく貢献した歴史的建造物です。視察では、当時の建設技術や現在の管理体制について説明を受け、歴史的インフラの維持管理や防災面での課題を理解する貴重な機会となりました。

また村尾教授は2月25日、CSIR-CBRIにおいて "Reconsideration on Urbanization in Tokyo Metropolitan area Since 1923 Great Kanto Earthquake from the Perspective of Exposure" と題して記念講演を行いました。本講演では、関東大震災後の都市の脆弱性や、将来発生が懸念される東京直下地震や南海トラフ地震に向けた耐震・防災対策について言及しました。

今回の訪問を通じ、インド国内の研究機関との協力関係を深め、今後の災害リスク軽減に向けた共同研究の可能性を探ることができました。特に、CBRI との連携を強化し、災害に強い都市づくり、建築耐震技術の向上、災害後の都市復興に関する学術的な取り組みを推進し、災害科学の発展に寄与していく所存です。



CBRI 所長との記念写真



講演会参加者との記念写真

文責:村尾修(国際防災戦略研究分野)

(次頁へつづく)





アッパー・ガンジス運河



साईसआईआर नोहानी भाग आनुशांत सांश्रण्टा, खुळी CSR-Gertal Bulling Research Institute, Boorine CSIR-CBRI International Experts Lecture February 25, 2025, Tuesday, 11-30 AM (IST) onwards At Rabindranath Tagore Auditorium, CSIR-CBRI, Roorkee Reconsideration on Urbanization in Tokyo Metropolitian area Since 1923 Great Kanto Earthquoke from the Perspective of Exposure I Ranto Enthquake rands major concerns about without wherefolly, supercisity regarding fire space, search gathers, the personal fire proposed lates of the Company of



記念講演概要